



清流くん

梅雨にむけて

もしもに備えて

## 「浸水想定区域図」を確認しましょう。

千代川水系浸水想定区域図とは、千代川流域におよそ100年に1回起こるような大雨（2日間の雨量：325mm）が降った場合に、川の水が堤防を越えたり堤防が決壊したりして浸水するおそれがある範囲とその深さを示したものです。これから集中豪雨（梅雨）等により、川が増水しやすい「出水期」に入ります。もしもに備えて一度「浸水想定区域図」をご確認ください。



ホームページで

チェックしてみて!!

ホームページでより詳しく「浸水想定区域図」を見ることができます。

鳥取河川国道事務所ホームページ

<http://www.cgr.mlit.go.jp/tottori/river/flood/index.html>

川に関する情報

千代川水系浸水想定区域図

### 浸水想定区域図の見方

浸水深の区分は、人や家が水に浸った場合、その浸水深がどの程度なのかの目安として、下記のとおり設定しています。

- 5.0m以上の区域**  
 3階建て以上の家屋でも水没するおそれがあります。
- 2.0～5.0mの区域**  
 2階建ての家屋が水没するおそれがあります。
- 1.0～2.0mの区域**  
 家屋の2階まで浸水するおそれがあります。
- 0.5～1.0mの区域**  
 大人の胸くらいまでの高さです。自動車の通行が不可能になり、歩行も非常に困難になります。家屋の床下浸水が起こるおそれがあります。
- 0.5m未満の区域**  
 大人のひざくらいまでの高さです。家屋の床下浸水が起こるおそれがあります。

2階の軒下までつかる程度…5.0m ▼

1階の軒下までつかる程度…2.0m ▼

大人の腰までつかる程度…1.0m ▼

大人の膝までつかる程度…0.5m ▼

《浸水深の区分》



# 千代川の堤防を点検しました。

国土交通省鳥取河川国道事務所では、出水期を前に千代川の堤防・護岸・工作物などの河川施設や河川内広場や水辺施設などの利用施設について一斉点検を実施しており、今年度は4月21日に行いました。今回の点検では大きな異常や変状はありませんでしたが、10箇所では補修が必要と判断されました。この箇所については出水期（6月10日～10月20日）までに補修を行います。

- ※1 防災エキスパート…公共土木施設の専門的知識を持ち、災害発生時に被災情報の収集等の支援活動を自主的かつ無報酬で行うボランティアです。
- ※2 河川愛護モニター…河川利用などの地域要望の把握や、河川施設の異常について河川管理者へ連絡するなどの業務をしています。



点検は国土交通省職員、防災エキスパート<sup>※1</sup>、河川愛護モニター<sup>※2</sup>からなる総勢20名で実施しました。

## 千代川河口清掃

「世界砂像フェスティバル」開催を前に行われた鳥取砂丘一斉清掃にあわせ、今年も4月5日に千代川河口の清掃活動を実施しました。



河川環境を守る清掃活動が千代川と八東川で行われました。

塵も積もれば山となります。ポイ捨てはやめましょう！

## 八東川クリーン作戦

八東川清流クラブ主催により、4月29日に清掃活動が行われました。当日は70名近い方が参加され、多くのゴミを処理することが出来ました。



## 第55回 鳥取県植樹祭が開催されました!!

去る4月26日、あいにくの天候のため殿ダムふるさと広場から国府町中央公民館に場所を変更して「第55回鳥取県植樹祭」が開催されました。緑の少年団を含む約500人が参加の中、「緑化功労者表彰」、「森林・みどりへの想い発表」等の催しをとおして、森林の役割と大切さ、木材の良さとその利用の重要性を再確認し、あらためて森林づくり活動への県民の参加を広く呼び掛けました。



鳥取県知事挨拶



緑化功労者表彰



6月にはいり梅雨の時期になりました。中国地方の梅雨入りは平年だと6月6日頃ですが、昨年は少し早く5月28日でした。梅雨はそれほど雨足の強くない雨が長期にわたって続くものですが、昨今は短い間で局地的に降るゲリラ豪雨が特徴です。急な大雨に備えて準備をしていきましょう。

(発行・編集)

〒680-0803 鳥取市田園町4丁目400番地

千代川流域圏会議事務局

国土交通省中国地方整備局 鳥取河川国道事務所 河川管理課

TEL0857-22-8435 FAX0857-29-1859

## \* 賛助会員募集終了のお知らせ \*

平成12年度より行っておりました賛助会員の募集につきまして、諸般の事情により募集を終了することとなりました。本会議で策定しました「清流を守る行動計画」に基づく活動について、皆様にその趣旨についてご賛同をいただくことで、より充実した活動となるよう取り組んでまいりました。あらためてお礼を申し上げますと共に、今後とも引き続きご理解をいただくようお願い申し上げます。